



NAGASAKI
MONO-GRAPH

02

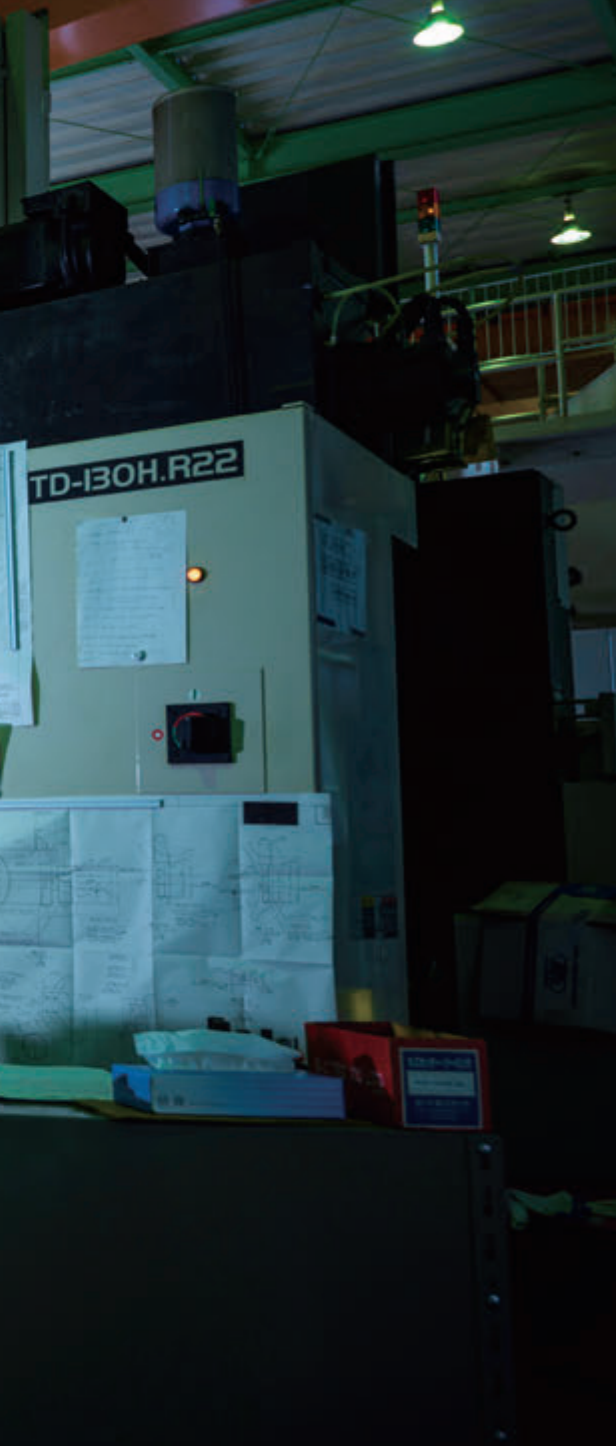
有限会社 協立鉄工所

ユウゲンガイシャ キョウリツテッコウシヨ

技術の本質とダイナミズム

切削と旋削。どちらも金属を加工するうえで必要不可欠ながら似て非なるものである。切削はものを切ったり削り取ったりすることで、希望の形に近づけていく技術のこと。一方の旋削は回転しているものに工具を当て、移動させることにより望みどおりの形状に加工する技術だ。主力商品である火力発電や船舶用タービンの部品は、この2つの加工精度によって製品の良し悪しが左右される。しかも量産品ではなく一品一様。加工する金属や大きさも変われば、求められる仕様もその都度変わっていく。こうした高難度、高精度なリクエストに応えるには最新鋭の機械のチカラが必要となる。だからといって、職人がお役御免になるわけではない。むしろその逆だ。手の感触によってしかわからない細やかな仕上がりに、手を動かしてきたからこそその経験値は何物にも代えがたい。機械の性能と職人の技術。その相乗効果により「機械以上」「職人以上」のものをつくることができると信じている。





CNC横中ぐりフライス盤導入による
陸用・船用タービン各種部品の加工プロセス強化

｜ 補助事業のきっかけ ｜

機械と職人の力の相乗効果でクライアントのニーズに対応

近年、中・大型部品においては重切削性能や高速化など、高効率で高度な加工技術が要求される傾向にある。これまで縦旋盤5台と汎用機の横中ぐり盤3台、そして従業員の技術で何とかカバーしてきたが、加工物の形状や内容によっては対応できない案件の発生頻度が増えていることを実感。また作業者の技術に頼る部分が高いためコスト高の状況にあった。

｜ 補助事業の内容 ｜

高精度の技術獲得と高効率化直面する2つの問題をクリアに

特に高効率発電設備やLNG船の需要増に伴う陸用・船用タービン部品の加工需要は今後さらに高まることが予想され、高難度・高精度の技術獲得は必要不可欠。そこで最新鋭のCNC装置付き横中ぐりフライス盤を導入することで「受注できない」という弱みを解決し、既存の作業においても高効率化によるコストダウンを図り、相乗効果による受注拡大を目指したい。

｜ 補助事業の成果 ｜

大型加工に対応可能な設備を整え新たな市場獲得による事業拡大を

これまで受注できなかった異形状、3次元形状、重切削加工などについても対応できるようになったことから、地元造船所や県外企業への積極的なアプローチが可能に。また、これまでかなりの時間を要していたツールの付け替えや反転作業が自動でできるようになり作業効率もアップ。大型の加工の需要が増えているため、親子クレーンの導入も検討している。

Information	会社名	有限会社 協立鉄工所	
	住所 連絡先	長崎市神ノ島町3-526-51 ☎095-865-5139 FAX,095-865-5442 http://www.kyouritsu-iw.co.jp ✉kyouritsu@cronos.ocn.ne.jp	
<input type="checkbox"/> 代表取締役 瀧口 典文 <input type="checkbox"/> 設立 1975年5月20日 <input type="checkbox"/> 資本金 300万円 <input type="checkbox"/> 業種 金属製品製造業 <input type="checkbox"/> 従業員 10名			

